

# 令和3年度「志教育」実践事例

宮城県佐沼高等学校

本校の志教育は、日々の教科指導や生活指導が土台となっている。教科指導重点事項は、社会人として必要とされる言語能力、科学的・論理的的分析力の育成、歴史・文化・風土の理解、健康な心身の発達、実生活に必要な知識や技術の定着などである。生活指導としては、挨拶と身だしなみの徹底、家庭学習時間の確保、清掃活動の徹底を重視している。これら2つの指導を両輪とし、本校では様々な志教育を行っている。例を挙げれば、社会人講話、学部学科研究・オープンキャンパス参加、地域課題研究、Sanuma Summer University、先輩に聞く、進路プランニング、志望理由書作成、進路講話などである。生徒には入学時に『咲こうファイル』を持たせ、様々な行事で配布された資料や自分たちが記載したプリントをファイリングし、いつでも見返せるようにしている。具体的な実践例については以下のとおりである。

ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスへの参加などは推奨できなかった。

## 1. 社会人講話

(株)河北新報社の方を外部講師としてお招きし、社会で求められる人材や地域で活躍する職業人の考え方、社会の現状・実情を知り、社会現象への関心を持つための契機とするとともに、社会と自己との関わりから自身の生き方・将来像を考えるための一助としている。事後指導としては、河北新報社の「声の交差点」に実際に投稿させるなどして社会の一員としての自己について考えるきっかけとした。

## 2. 地域課題研究（1・2学年）

登米市内を中心とした地域が抱える課題や現状を認識、理解することで、社会的視点から自分のできることや必要なものを自主的に見つけさせることを目的としている。研究に取り組む際の基調講演として、地域課題講話と題し、農林漁業、商業、工業、観光、まちづくり、看護・医療、福祉、教育の計8分野において市職員の方々から講話をしていただき、生徒個々の課題意識を醸成した。

その後、1学年は、数人のグループに分かれてテーマを設定し、アンケート調査やインターネットを通じた情報収集・分析・考察などを行い、まとめとして地域の抱える課題の実態やその解決策の提言を発表した。2学年は、個人研究として文献やインターネットを通じた情報収集・分析・考察などを行い、分野ごとの発表会を行った。

地域の実情の理解を深めるとともに、地域の課題を確認する取り組みとなっている。

## 3. 先輩に聞く（1・2学年）

就職試験や推薦入試等で進路が決定した3年生から受験勉強や推薦入試等に対する取り組み方へのアドバイスを話してもらうものは実施済みであり、現役の大学生から大学生活の様子を紹介しつつ高校時代にしておくべきことなどを話してもらうものは、現在実施予定である。

生徒たちにとっては、普段の授業の大切さや積極的に質問し自分で解決することの大切さを学べるとともに、進路意識を高められる取り組みとなっている。

#### 4. 進路プランニング（3 学年）

志望校の受験科目、傾斜配点、大学入学共通テストと2次試験の割合などを確認させることを通して、自分の目標とすべき点数とのひらきを理解させながら、学習計画を立てさせている。主に、国公立大学の前期・中期・後期入試の日程、私立大学の入試日程を確認させ、具体的な受験計画を立てることについて行っている。

#### 5. 志望理由書作成（2・3 学年）

なぜこの大学・学部でなければならないのか、そこに至る経緯や目的を達成するためにどのような取り組みをしてきたのか、自分の目標と社会との結びつきなどについて考えさせ、志望理由書を作成させている。推薦入試を受験しない生徒に対しても、これまでの自分を振り返り、今後の自分の進路を描いていくために行っている。

今年度は、早期の意識付けをねらいとして、2 学年も志望理由書の作成に着手した。

#### 6. 進路講話（全学年）

「テストの振り返りとこれからの学習方法について」（1 学年）、「高校生としての『旬』を生きる～進路実現に向けて今なすべきこと～」（2 学年）、「受験を迎えるにあたって～進級を前になすべきこと～」（2 学年）、「進路実現に向け今何をすべきか」（3 学年）などと題して、各学年で外部講師を招いた講話を実施した。普段の学習方法、模試の活用法、受験に対する心構え、推薦入試や大学入学共通テストについてなど、具体的な内容に刺激を受けた生徒が多くいた。